

## P4C japan 7 月ミーティング記録

日時 2016.7 月 24 日 日曜日 17:30～

場所：大阪大学中之島キャンパス 9 階

出席者：大学教員 2 大学附属中等教育（高校） 1 中高一貫私学中学校 1 小学校 1 パン屋さん 1  
博士課程学生 2（ノーステキサス大） その他教員 1

記録：辻村

### 0.自己紹介

環境教育を専攻するアメリカの院生（日本人とアメリカ人） 大学の教育原理編纂中の大学の先生  
地域の取り組みで子どもたちとの関わりが深いパン屋さんが New Commer として参加頂いた。

内容：哲学プラクティス連絡会 第 2 回大会榊形氏発表内容に関する質疑

発表 PPT 原稿に基づき質疑応答が行われた。

4

## 2. 学校でのP4C P4C in Schools

—これまでの取り組みからの考察—

学校では学校文化の習得が求められる

- 小学校入学時（新しい言語の学び）
- 教育課程（教科言語の学び）
- 小学校高学年から中学校へ（自己への反省と抽象度の増した言語の学び）

学校はこれらの学びを自覚的に、あるいはメタレベルで実施していない

⇒P4Cはこれらの新しい学校文化の言語習得に有効である

Q 学校はこれらの学びを自覚的に、あるいはメタレベルで実施していない～ における「学校」とは？

A 「学校では」と置き換えても何ら差し支えない。

・生活言語からいきなり学校文化の「言葉」に変わること、学校についていけない子どもを産み出す。

その子どもたちを P4C では「聴く」「ボール」⇔（セーフティ）によってケアする。あるいは、クラスメイトによるホローアップ的な言説によって子どもたちはケアされる。

5

### 3. 日本の学校における教室・学級の特徴

- 参加の強制性（自らの意志で参加しているわけではない）
- 参加の均質性（基本的には同一年齢の児童生徒）
- 参加における具体的人間関係の背景化

ネガティブには何が起るか

- いじめ
- 自分の居場所がない
- 学校は刑務所で、教室は牢屋（ある小学校4年生の言葉）

⇒P4Cはこれらの問題の克服に有効である

6

### 4. 学校・学級のネガティブな状況を克服する対話的環境

- 共同/協働
- 平等
- 安全性
- 解放性
- ケア

7

### 5. 対話における子どもの態度

- 自分の言葉で語る
- 相手の発言をよく聴く（active listening）
- ケアの配慮

○教科の言葉で語らされているので、「自分の言葉で語ることの**楽しさ**」

参加者からの感想：商店会でも、何か言っているようで何も言っていない「言葉」でのやり取りに終始することがある。にも関わらず、（予定調和的に）「議決」されていく**不思議**。

言語レベルの変化に対して

間接話法（Indirect Communication）とのアナロジーに拠る意見が提示された。

I You（生活値知？）から I It（知識—科学値知？）の関係に変わるのではないか？

## 6. 発言する勇気とその段階

- 自分の意見の表明  
「私は・・・だと思います。なぜなら・・・だからです」
- 他者の意見の肯定的評価  
「私は～さんの意見に賛成です/同じで意見です」
- 他者の意見の否定的評価  
「私は～さんの意見に反対です。なぜなら・・・だからです」
- 他者に対するケア的発言  
「～さんは、こういうことを言おうとしているのだと思います」  
「～さんの意見を聞いた方がいいと思います」

○勇気なのだろうか？

「勇気」という観点に依拠して段階的發展をなすという考察に対する違和感の提示があった。

「難しい」という観点では「～否定的評価」を提示することの方が。「～ケア的発言より、「難しい」のではないか？

## 11. 補足

- 朝のウォーミングアップ
  - 毎朝、5分間、子どもがペアになって、交互にその日の報告をして、相手になるべく多くの質問をしてもらう。
  - 毎朝、5分の論理的スキルを身につけるゲーム、テストを行う。

○朝のウォーミングアップ

アメリカで行われている。一言語活動の修得には有効であろう。

以上